

	第118回 横浜市都市美対策審議会議事録
議題	1 横浜都市デザインビジョンについて（報告） 2 各部会の開催状況について（報告）
日時	平成27年3月23日（月）午前10時から12時まで
開催場所	横浜情報文化センター 情文ホール
出席者（敬称略）	委員：西村幸夫（会長）、加藤仁美、金子修司、国吉直行、佐々木葉、鈴木智恵子、関和明、高橋晶子、中津秀之、野原卓、六川勝仁、竹谷康生 幹事：相場崇（環境創造局長代理 環境創造局企画課担当課長） 秋元康幸（建築局 企画部長） 清水裕之（道路局長代理 企画課担当課長） 中野裕也（港湾局長代理 企画調整部長） 平原敏英（都市整備局長） 書記：小山孝篤（都市整備局企画部長）、綱河功（都市整備局都市デザイン室長） 小池政則（都市整備局地域まちづくり部長）、飯島悦郎（都市整備局景観調整課長） 説明者：議題1：野田恒雄（都市整備局都市デザイン専門職） 議題2：飯島悦郎（都市整備局景観調整課長）
欠席者（敬称略）	委員：近藤ちとせ
開催形態	議事1は公開（傍聴者1名、記者0名）、議事2は非公開
概略及び決定事項	議題1：報告内容について確認。 議題2：報告内容について確認。
議事	<p>(1) 横浜都市デザインビジョンについて（報告）</p> <p>資料1、資料1－2について市から説明を行った。また、市民意見募集の結果を説明した。</p> <p>○加藤委員 非常によくできていて親しみやすい印象です。私がこのビジョンの中で特に関心があるのは、概要版第1章「横浜の都市デザイン活動とは」の3番「市全域で取り組む」と、5番「長期的に捉えて取り組む」、最後の第5章「視点」の中の「持続的な効果」などです。都市デザインというと、学生もそうなのですが、みなとみらい周辺でやることだと固定的に捉えている部分があります。私は、今後横浜市がこのビジョンを市全域で展開していくために、18区それぞれに都市デザイン室的なものが設置されてもいいのではないかと思います。市民と共に考えていく体制が必要だと思うのです。つくられた空間を最終的にはだれがどのように責任を持ちながら維持管理していくかということを考える時代になってきていると思うからです。その辺も視野に入れながら、このビジョンを市全域に展開して、きちんとした体制のもとにこれを実現していくべきではないかと思います。</p> <p>○綱河書記 今各区の区政推進課には、技術職も配置するまちづくり担当という組織ができております。私たちはこれからこの都市デザインビジョンを区にも普及にしていきたいと思い、まずは今ある組織をうまく活用し、浸透させるところからスタートしていきたいと考えております。</p> <p>○西村会長 市全域ということに対してはどうですか。</p> <p>○綱河書記 18区各區にそういう組織がありますので、そこにアプローチしていきたいと思っております。</p> <p>○西村会長 スケッチブックでは7つの風景を切り取っています。郊外まで含んでいて、都心だけが対象ではないというメッセージをもらっていると思います。</p> <p>○野原委員 大変よく整理されていると思いますが、少し気になるのが、この都市デザインのパンフレットとビジョンの関係がよく見えてこないところです。私の学校でも新入生は都市デザインをほとんど知らないで、例えばくすのき広場などを全く知らないのですが、見学して説明すると結構感動して、聖地だなどといってまとめてくれたりもします。このように今までの活動をきちんと伝えることも、ビジョンを市民に広げていく上で非常に重要だと思います。また、ビジョンには歴史を生かしたまちづくりの話がほとんど出てこないのですが、横浜の歴史を生かしたまちづくりは、他の自治体のものとは大きく違うところがあり、単に「歴史を生かしたまちづくり」と書くだけでは伝えきれない事項がたくさん含まれていると思います。古いものを残すだけではなく、過去からの関係でどこに位置づけて、未来にどう結びつけていくかということを考える、ある種、まさに思想のようなものがある気がするのです。それは個々の施策以前に、この横浜の豊</p>

かな価値を共有していく上で非常に重要なと思います。過去の実績とこのビジョンがどう繋がっているのかがもう少し見えてくると、より豊かなビジョンになるのではないかと思いました。

○西村会長 市民意見の中にも過去の実績が余り描かれていないというものがありましたが、いかがでしようか。

○綱河書記 資料の扉を開いたところに写真がたくさん載っていますが、市民意見募集前は、こういったページはありませんでした。個々の写真の説明はありませんが、1ページで紹介するようにしたということです。また、付録のページで都市デザインのパンフレット、リーフレットを紹介していますが、これは今までの取り組みや実例もあわせて見ることができるように工夫したもので、青色のパンフレットなどをめくりながらこのビジョンを読んでいただくと、「あ、こういうことか」とご理解いただける内容になったと思っております。今後実際に普及する段階では実例を織り交ぜた解説、プレゼンテーション資料などを作りたいと思っています。

○金子委員 これは大変な労作だと私も感じていますが、今の野原委員のお話と同様に、横浜独特の都市の固有性や、どうやってこれを伝えるかがよく見えてこないような気がしました。ご説明にありました写真ですが、それぞれのバックボーンがわかる人にはわかるのですが、ちゃんと説明できるかというと難しい。みなとみらいの風景、ランドマークを含めた景色など、その説明文を市民と共有しながら時間をかけてつくっていくことで、もっとわかりやすいものになる気がいたしました。今回のこのビジョンの考え方は新たな横浜の思想です。これを市民に普及していくために、ランドマークや港の見える丘公園などさまざまな実績を納めたサブパンフレットを作り、市民との話し合いの中で完成させていくというようなこともできると思います。専門家より市民に、小中学生や子供にまで普及することが大事だと考えております。

○西村会長 今後の使い方ですよね。ほかのツールもうまく使いながら、ということですが、いかがですか。

○綱河書記 お手元に都市デザインのリーフレットがございますが、これはそれぞれのカードに切り抜きがあり、裏面にその解説が書いてあります。このようにビジョン本編を解説するツールもふやしながら、都市デザインビジョンを普及させていきたいと思っておりますので、参考にご覧ください。

○関委員 私は、市民のみなさんがこのビジョンを一読しただけで理解するのは少し難しいと思いました。私も先日ご説明いただき、その後何回も読んでみてわかったのですが、今までやってきたこととの繋がりが見えないわけではなくて、むしろ都市デザイン活動の40年を、言葉を変えて確認しながら再定義しているというか、組みかえて編集しているのだと思いました。必ずしも今までなかつたことをこれからやろうということではないので、今までの活動のつながりというのは、深く読んでいくと言葉の端々から感じられました。

それから、ビジョンでは5年、10年の近未来ではなく、一世代とか、30年、50年のかなり長期的な考え方を提示していて、少子高齢化や災害対策など、最近のトピックだけに拘らず、それらの考え方を包摂しながら大きな視野で見ている、それが都市デザインだということを改めて言っているのがとてもいいと思いました。でも一見したときにこのスタイルには大変驚きました。特に後半のスケッチのページなどは斬新で、言葉の使い方も、あえて風景というタームを前面に押し出して、そこにいろいろな想いを込めている、そういうところが新しいチャレンジだと思い、賛成というか、いいなと思っています。説明していただいたときに、「安全性」、「安心」、「セキュリティーの問題」、「使いやすく便利な都市機能」あるいは「経済活動への貢献」といった今までのパラダイムを前提にしていない、どこに行ってしまったのかと指摘を受けたと聞きました。ですが、「豊かな暮らしをつくる」という中にそれらはすべて入っていると思います。ビジョンの思想の普及については、いろいろなメディアのことも考えているでしょうし、若い世代への教育などの中で活用していくといいということをほかの委員の方と同じ考えです。内容が多岐にわたっていますので、このビジョンからいろいろな活動が派生していくことを期待したいと思っています。

○鈴木委員 今までにも都市デザイン室が作った多くの出版物がありますが、昔のものは専門家向けというか、市民でも特に関心がある方だけが手に取るような本でした。それと比べるとこのビジョンは発想が全く違う、180度の転換で、都市デザイン室が「都市デザインは市民から」という発想でこれを作ったことには衝撃を受けましたし、何か都市デザイン室の柔軟性のようなものを感じることができ、大変うれしかったです。特にスケッチの部分は見ているだけでも楽しめるので、こういうことにページをたくさん割いていただいたことはとてもうれしく思います。先ほど歴史を生かしたまちづくりが見てこないというお話をされましたかが、今までの冊子にはかなり詳しく書いてありますので、当面は両方で説明する形で進めればいいと思います。パンフレットも版を重ねていくと、都市デザインビジョンの取組が取り入れられるかもしれません、今までやってきたことと全然表現方法が違うので、両方を読んでいただく形で市民の方にアピールして

いけばいいと思いました。私も歴史を生かしたまちづくりに関わってきましたが、この風景のスケッチに、関内や山手の歴史的建造物を描いてもらい、その周辺が高層ビルで取り囲まれるということが起こるのだ、実際に起きているのだというようなページがあったらしいと、歴史を生かしたまちづくりに関してはそう思いました。

○中津委員 この説明の最初に、「このビジョンには法的縛りがない、だから自由に描きました」言われましたが、法的縛りは無いにせよ今後どう運用していくかをもっと積極的に具体的に検討していただきたいと希望します。これから新しく横浜に入ってくる事業者たちは非常に情報に敏感で、こういうものがある、ではこれをやろうという前提でいい計画を立てるとと思うのですが、他の部局の窓口で、「それには法的制約はないので、無理にやらなくてもいいですよ」などと説明してしまうことが容易に想像できるからです。そういうならのように、ぜひ行政内部の各部局が連携して、こういうものを都市デザイン室が作ったことを積極的にアピールしていただきたい。また市民側もこのビジョンを使ってワークショップを開くとか、小学校や教育委員会なども巻き込んで、横浜市全体としてこれから取り組んでいくのだというような活動を計画的に展開していただきたいと切に希望します。

○西村会長 今後の展開をちょっと考えてほしいと。お願いします。

○高橋委員 今までの各委員のご意見と似ていますが、2つあって、1つはこのビジョンそのものについて、2つ目は活用の仕方についてです。1つ目は、手を差し伸べているような作り方で冊子自体がデザインされているので、非常に好感を持ちました。2つ目に続くのですが、これは手を差し伸べている冊子なので、相手がいるのです。それをどう伝えたり、手を繋いだりしていくかなのですが、役所の中というよりは民間のいろいろなところと繋がるのが先決だと思っています。これに賛同した先生が授業をやってスケッチブックを活用するとか、共感した美術の先生が吹き出しに空欄のある応用バージョンを作って、空欄をみんなで埋めると何か共通したものと別々のものが現れ、そのスポットの資料としてどこかにちゃんと保存して見ることができるようになります。そうなっていけば、「人づくり」に繋がっていくのではないかと期待しています。別章のスケッチは白紙で終わってしまっては悲しいので、ぜひうまく活用していただきたいと思います。都市デザイン室には、フェイスブックはありますか。

○綱河書記 いいえ、公のフェイスブックのページはありません。

○高橋委員 くまもとアートポリスにはあるのです。官公庁のどこかのポジションでやることは多分可能だと思うので、その辺から始めてはどうかと思います。

○佐々木委員 ずっと議論に参加してきたので、付け加えることはありませんが、改めて我々がというか、都市デザインというものが求めているデザインのクオリティー、究極の都市デザインというのは、デザインされていることに気がつかないようなもので、何もストレスなく自由に暮らせるようなものだと思うのです。このビジョンは、例えばたくさんの写真がコラージュされたこの場面を見ても、何がすごいのかということは想像力を大分働かせないと分からない。これがいかに大変な努力やチャレンジの成果なのかに気づくことは難しいと思うのです。多くの人たちが、それを理解することは大切です。ただ、一方で「こういう点がすごいのだ」と思わなくとも、そこで自由に行動し、街を作っていくことも大切だと思います。我々は究極どちらを目指していけばいいのかは非常に難しいと思います。少なくともまちづくりに関わる人は、都市デザイン的な取り組みがなかった場合、それぞれの空間がどうなってしまうのか、あるいは今ある空間に都市デザインという試みで関わっていかないとどうなっていくのかを理解し、ただ単に仕組みや法律、制度に則って問題がないようにつくるとこんなふうにしかならないというネガティブな例なども示しながら、これを活用していくことも必要ではないかと思います。

○加藤委員 私はこの4～5年、新入生の研修会で横浜の街歩きを最初にやっています。高速道路の地下化、くすのき広場などの話から始めないと、どうしてもストーリーが組めません。そういう歴史があって今があるのだと伝えるようにしています。他にも参考資料があるというお話ですが、参考にしたいのでぜひリスト化をお願いしたいと思います。

○綱河書記 付録のページですが、この資料は現在配布していてどなたでも入手できるものです。ほかにもっと詳細に述べている事例集などはあるのですが、現在では手に入りません。しかし、もう見ることができないので困りますので、今後、必要な部分を見ていただけるようにしていかなくてはいけないと私どもも考えているところです。

○加藤委員 わかりました。図書館で借りられるものでもいいので、ご検討をお願いいたします。

○六川委員 私も政策検討部会の委員として関わってきました。そのときもお話をしましたが、できるだけ市

民にわかりやすくしてほしいということが1つです。それからもう一つ、せっかく40年以上の実績があるのですから、これをしっかりと踏まえてビジョンを作っていくべきではないかというお話をしました。改めてこの概要版を見ると、私の個人的な意見ですが、まだ少しあわかりにくいように感じます。この緑色のファイルに横浜都市デザイン実績概要資料案がついていますが、これがビジョンの後に添付されればとてもわかりやすくなる、そんな印象を受けました。このような実績があるわけですから、こういう経緯でこのビジョンができたと説明されると、市民のみなさんにさらにわかりやすくなるのではないかと思いました。

○西村会長 政策検討部会の席でも、参考資料にあるようなものがベースになってビジョンはつくられているので、何らか別の冊子にしてうまくセットで配るとか、工夫してもらいたいという意見は出ました。どうですか。

○綱河書記 緑色のファイルの資料は、ほとんどが青色のパンフレットから抜粋したもので、最後に馬車道の事例の資料を追加しておりますが、それだけはパンフレットにもない情報です。部会でもご指摘いただき、より情報量の多い青色のパンフレットを紹介する形にしました。パンフレットは順次改訂されていきますので、そのものを印刷物に織り込むのではなく、資料として紹介するという仕立てにいたしました。

○竹谷委員 私は郊外に住んでいますが、郊外では今も公共事業が多く、こういうすばらしいものができたから、これを見てデザインについて考える時間をとってほしいと思います。これは住民側のせいもあるのですが、そういった時間がとれずにぎりぎりまで賛成、反対の交渉が行われて、いいデザインを考慮する時間が非常に少ないので、今後はぜひ関係者がこのビジョンを読んで、心に余裕を持っていい街を作ってほしいと、期待しております。

○国吉委員 私は、当面5年ぐらいの間は何を狙っているのかが見えるように、どこかにウエイトを置くといいと感じました。そうしないと、全体を書けば書くほど市民側から見るとどこから始めればいいのかわからなくなります。ロングスパンの話もあれば短い話もあるし、郊外もあれば都心部もあるからです。プランナー、大学の先生方、学生たちが一緒に活動しようとしたときに、力を入れそうなところや協力を必要としている感じが見えてくると、もっといいと思うのです。この前の政策検討部会でも、教科書的にどこの都市でも使えそうだという感じ、横浜らしい独特の取り組みが見えづらいという意見がありました。また先ほど、全市でどう展開していくのかという話がありました。各区に任せるとか、幾つかモデル的に提案していくのかなど、戦略を今後どうしていくのか。現在の狙い、方向性のようなものが見えると、わかりやすくなると思うのです。例えばビジョンを発表するときに、「当面どこからやるのか」という質問に対して幾つかヒント的に答えるなど、そういうものがあるといいと感じました。

○綱河書記 横浜市都市デザインビジョンは、思想の部分に特化してまとめました。実際に取り組むべき戦略は別途お見せしなければいけないと考えてています。そして、取り組んでいきたいところは、昨年提言としていただいた8つのテーマなどです。例えば歴史については戦後建築もこれからのテーマとして挙げられ、いくつかヒントはいただいております。また、今現に動いているプロジェクトも多々あり、それらへの対応など、改めて戦略を作っていきたいと思っております。

○国吉委員 横浜市が今後大きく動いていくいろいろなプロジェクトがありますし、これから立ち上げるものもあるでしょう。都市デザイン室あるいは都市整備局として「都心部だとこういうところに、郊外部ではこういうところに踏み込んでいきたい」など、具体的なキーワードや取り組み内容、エリアなどがモデル的に幾つか提示されると伝わりやすいのではないかという感じがしました。

○西村会長 ありがとうございます。このビジョンは長期的な物の考え方なのですが、それと当面の戦術的な問題ですね。これをどうやって市民の方に伝えていくのかと、動かしていくのかというところの接続に関しては、特に過去の実績も踏まえ、これから工夫が必要だということに関しては共通していたのではないでしょうか。ビジョンそのものはこれだとして、これを使いこなし、メッセージとして繋がり、これまでの実績をちゃんと将来にも引き継ぐようなうまい接続の仕方です。それは発表のときの工夫なのかもしれないし、新たにつくる小さなパンフレットなのかもしれないし、具体的なプロジェクトの発表の仕方かもしれません。「突然出てきて非常に哲学的でいいのだが、全体の中での位置づけがわかりにくい」ということにならないように工夫していただきたいというのが、委員の方々の思いではないでしょうか。

いろいろと意見は出ましたが、基本的にはこの意見を確認して、議会に報告するなど、今後の使い方に関しては一工夫も二工夫もしてほしいということをお願いしたいと思います。

○綱河書記 次の議題は各部会の開催報告ですが、こちらは部会の当時、横浜市の保有する情報の公開に関

	<p>する条例第31条ただし書きの規定に基づき非公開で審議していただいた案件です。いろいろな事業についてご審議いただきましたが、これらは今日現在もまだ公開されておりませんので、これ以降の報告も同じく先ほどの情報の公開に関する条例第31条ただし書きの規定に基づき、非公開とさせていただきたいと思います。</p> <p>○西村会長 それでは以降の会議は非公開としたいと思います。</p> <p>(2) 各部会の開催状況について（報告）</p> <p>非公開</p> <p>(3) その他</p> <p>○西村会長 それでは議事は終了しましたので、本日の議事内容について事務局から確認をお願いします。</p> <p>○綱河書記 議事（1）「横浜都市デザインビジョンについて」は、内容はこれで固めていきたいと思いますが、この先の運用や普及、いかに次の戦略的事業などに繋げていくかなどについて多数ご意見をいただいているります。</p> <p>それから議事（2）「各部会の開催状況について」を報告いたしました。</p> <p>以上です。</p> <p>閉会</p>
資料	<p>資料1：議事（1）横浜都市デザインビジョンについて      資料2：議事（2）各部会の開催状況について      資料3：第117回横浜市都市美対策審議会議事録</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の議事録については、会長が確認する。</li> <li>・次回開催の日程等は、別途個別に日程調整する。</li> </ul>